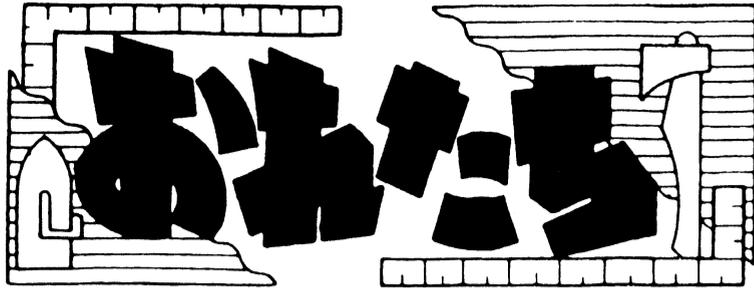


### 生たまご大作戦 秋の拡大月間

〈拡大統一行動残日程〉

- 第3次 9月21日(火)・22日(水)
- 第4次 9月27日(月)・28日(火)・29日(水)
- 第5次 10月6日(水)・7日(木)
- 第6次 10月13日(水)・14日(木)
- 第7次 10月20日(水)・21日(木)
- 第8次 10月26日(火)・27日(水)・28日(木)

「生たまご」と拡大袋を持って  
組合員訪問を進めます



http://www.doken-arakawa.org/ 東京土建荒川支部

2010年

9月10日

第503号

検索



現在、建設・建築業界は一部の大資本を除いて、氷河期からいまだ抜け出さず、とがでない状況にあります。こうした現状からこそ、私たちは賃金・工事代

## 不払い相談なら東京土建へ 日頃の予防策も必要です

- 1、初めての取引先は契約前に、仲間などから情報を集める。
- 2、見積もりをきちんと行い、原価を割り込む低単価・赤字工事は断る。
- 3、着工前に契約書、請書、発注書をきちんと交わす。
- 4、長期の手形、労務費に

- 5、長期工事では、月々の出来高請求と月別の清算を確実に行う。
- 6、追加・変更工事には、本体契約とは別の書面契約を行う。
- 7、支払いの遅れ、オール手形などの要求は、倒産の危険信号。工事から手を引く決断も必要。
- 8、現場の出面、作業証明、作業指示書などは大切に保存しておく。
- 9、「手問請」で働く場合は、仕事先から「雇い入れ

- 10、取引先の倒産に事前準備として中小企業倒産防止共済制度に加入しておく。
- 私たち組合では、不払い相談を行っています。不払いにあった時には、すぐに組合まで相談して下さい。また、組合未加入の仲間にも組合の不払い相談を知らせよう。

賃金対策部長 磯部正三

# 労災・国保など組合業務を前面に 秋の拡大月間真っ最中(10月末まで)



渡辺秀則さん(事業所分會、53歳、塗装)は、川崎市生田の現場でハンゴの足場から落ちる事故にあいました。頸椎骨折(4カ所)、頭部打撲の大きかったです。直ちに救急車が呼ばれ、到着と同時に行われた救急隊の適切な初期処置、そして、最初に搬送された病院での処置。渡辺さんは、事故発生から1時間で横浜市立市民総合医療センター高度救急センターに搬送され、医師の高度な手術で一命を取りとめることができました。頭には頸椎を支える、重さ約3キ

## 現場で落下 頸椎骨折 労災加入してよかった

【並木義男記者「荒川」】今年の2月19日、突然の事でした。渡辺秀則さん(事業所分會、53歳、塗装)は、川崎市生田の現場でハンゴの足場から落ちる事故にあいました。頸椎骨折(4カ所)、頭部打撲の大きかったです。直ちに救急車が呼ばれ、到着と同時に行われた救急隊の適切な初期処置、そして、最初に搬送された病院での処置。渡辺さんは、事故発生から1時間で横浜市立市民総合医療センター高度救急センターに搬送され、医師の高度な手術で一命を取りとめることができました。頭には頸椎を支える、重さ約3キ

「秋の拡大月間」が始まっています。支部目標は125人。「ピンチの裏にチャンスあり」。厳しい状況だからこそ「労災特別加入したい」、「賃金不払いを相談したい」など、未加入者は東京土建に大きな関心を持っていきます。組合に加入してもらおうチャンスです。達成にむけて最後までともに奮闘しましょう。

口々の医療器具をポルト4カ所固定。その後約1週間で歩行ができるようになります。1カ月後には北区にある王子病院に転院して、2カ月後の5月19日には退院することができました。渡辺さんは、「以前から、労災保険は法人の会社社長や役員は加入できないが、特別加入ならできると組合から聞いていたこともあり、労災に入っていたことに良かった。安心して治療に専念できるのも、組合が労災保険の手続きを素早く取ってくれたからです」と話します。今は、リハビリを兼ねていますが、現場復帰にむけて明るい光が見えてきました。

## まるで新築のよう リフォームに感謝

原田紀子さん

【船橋賢一書記局】「土



リフォームを頼んだ原田紀子さん(左)とリフォームを行った組合員の長島さん

原田さんは組合に相談する1年前、業者に相談しましたが、見積もりが大ざっぱな上、3カ月以上も放置されていました。3月に行われた荒川区の産

業展に足を運んだところ、組合の住宅相談コーナーを見つけ、相談しました。今回、原田さん宅をリフォームしたのは、組合のリフォームセンター会員で日暮里1分会の長島秀知さん(57歳、有限会社サード建設代表)でした。契約金額は490万円。同じ分会の節内博美さん(56歳)も応援に入り、7月初めに着工し、約1カ月で完了しました。

原田さんは、「冷たく頼りなかったフローリングも、断熱処理と床暖房で暖かくなりました。お風呂もバランス釜から自動の給湯器になり、台所はIHにしました。照明もクロスも替えて、部屋の仕切りもなくなりました。広く明るくなりました。また、以前に比べ建物の揺れが少なくなりました。風通しも良くなり、まるで新築のようです」と今回のリフォームに感謝していました。

## がんで二度の手術 土建国保に感謝

寺門詰二さん

【小野沢富彦記者「西尾久」寺門詰二さん(西尾久分會、72歳、大工)は、北・荒川支部を通算して加入歴45年になります。



2006(平成18)年に都立駒込病院に入院し、食道がんの手術を受け、今年5月には咽頭がんで二度目の手術をしました。

「退院で窓口に行き、渡された請求書を見てビックリ。あまりにも安い支払額に、土建国保に入っていて良かったと思います。病気になるまで、予算要求ハガキを書くことの大切さをあらためて感じましたこと、寺門さんは、土建国保のメリットに感謝していました。」

「国保のありがたみが分かったよ」と話す寺門さん

# 広島原水禁大会

## 被爆65年 7400人が非核の世界を誓う

### 国連事務総長・米駐日大使が初参加

#### 被爆者・

#### 坪井直さん

#### 核廃絶まで

#### 死ねない

【五箇谷日出雄＝荒川】

被爆65年、原水爆禁止2010年世界大会・広島の開会総会が8月4日、広島市内で開かれ、75人以上の海外代表を含め7400人が参加しました。平和記念公園で開かれた平和記念式典（広島市主催）には、国連事務総長が初参加し、被爆者が生きていく間に核兵器廃絶を達成しようとうったえました。また、米国の駐日大使など、核保有国の代表も初めて参加しました。荒川支部からは、豊田委員長、五箇谷副委員長、石川常任執行委員が参加しています。分科会は19、動く分科会も開かれました。

4日の開会総会での主催者報告では、核兵器廃絶は押しとどめることのできない流れであり、地球規模の草の根の運動が国際政治を動かしている。これを確信に、今こそ核廃絶に立ち上がるうと呼びかけました。85歳の被爆者、坪井直さんは、広島での被爆体験を語り、「核兵器廃絶をこの目でみるまでは、決して死ぬわけにはいかない」と力を込めてうったえました。

二日目は、動く分科会「岩国・呉基地調査行動」に参加しました。岩国基地は米海兵隊が駐留。これまでも騒音被害で、睡眠不足、農耕、漁業や学校教育への支障などが出ている。また、墜落などの事故や米兵の犯罪などが多発しています。三日目は、広島原爆戦没者慰礼式、平和記念式、閉会総会に参加しました。式では、秋葉広島市長が「核兵器のない世界を一日も早く実現すること、日本政府に対して非核三原則の法制化と核の傘からの離脱を求める」平和宣言を行いました。

子供代表からは、「ぼくたちの使命は強い願いを思

って、一人一人が行動すれば、未来を平和に導くことができる。広島を願いを世界へ、未来へ、伝えていく」との平和への誓いもありました。

また、来ひんあいさつの菅首相は「核兵器のない世界の実現に向けて先頭に立つて行動する道義的責任を有している」とあいさつ。初めて参加した、パン・ギムン国連事務総長は、「核軍縮と核不拡散は最優先課題。核兵器のない世界という私たちの夢を実現しましょう」とうったえました。

閉会総会では、核兵器廃絶条約の交渉開始を求める声をさらに大きく広げるとを呼びかける大会アピールを採択して閉会しました。



●荒川原水協のメンバーとして参加した荒川支部の参加者。左から豊田委員長、五箇谷副委員長、石川常任執行委員●第7分科会の会場

### 総会参加の半数が青年 原爆遺跡・碑めぐりに参加

【石川哲夫＝荒川】今回

荒川原水協代表団の一員として3年前の長崎大会に続いて参加してきました。開会総会の会場は、世界各国の代表団及び全国から集まった参加者7400人



【堀井龍二通信員＝日暮里】8月29日、北とぴあ

（北区王子）ペガサスホールで「夏の大学習会・秋の拡大決起集会」が行われ

## 坂内が講演

夏の大学習会  
北とぴあ 秋の拡大決起集会も



拡大決起集会」が行われ、参加者105人（来ひん2人、講師2人含む）

講演する坂内さん  
達成へ決意表明の日暮里  
夏の大学習会では、前全労連議長の日暮里三夫さんが「格差・貧困に立ち向かう労働組合の役割」を講演しました。①幕末の坂本龍馬の話も引き合いに、激動の時代には新しい時代感覚を磨いた運動が必要、②地域に密着した東京土建型の労働運動は重要など、組合活動は嫌々ではなく、楽しくやらないと本物ではないと締めくくりました。

秋の拡大陣式では、「組織拡大に向けた営業力強化

で熱気に包まれました。会場を見渡せば、若者が実に半数近くいました。本当に頼もしく思えました。

総会後、広島平和公園に行き、世界遺産の原爆ドームを目の当たりにしたときには、「この地で地獄の出来事があったんだな」としみじみ思いました。

三日間参加して感じたことや耳に残ったことは、忘れて去るのではなく、二度とこのような惨事を起こさせないために、私自身何をしたいかはよいか。それを考えなさいと語りかけてくるような思いがしました。

「憲法9条を生かした非核平和の運動」です。広島YMCA大会議室は参加者であふれ、今回初参加者が約半数。20歳代以下の人も20人以上いて歓迎の拍手が起きました。若い人や初めての人が多かったことは非常に喜ばしいことです。

### 平和は待って

いてはできない  
作ってゆくもの

【豊田佳二＝日暮里】二日目に参加の分科会は、

「核兵器廃絶と憲法9条」と題した特別報告を行い、「核兵器は無くさなければならぬ非人道的な兵器で、使用したら地球が終わる兵器、使用しなければ巨大な無駄を生み出す兵器。また、人間がつくった物で、無くす意思があれば無くせる物。使用するのには政府、政府を変えるのは民意であり、核抑止論を乗り越えること」と話しました。

海外代表である「アフガニスタンの正義を求める社

二日目に参加の分科会は、

「核兵器廃絶と憲法9条」と題した特別報告を行い、「核兵器は無くさなければならぬ非人道的な兵器で、使用したら地球が終わる兵器、使用しなければ巨大な無駄を生み出す兵器。また、人間がつくった物で、無くす意思があれば無くせる物。使用するのには政府、政府を変えるのは民意であり、核抑止論を乗り越えること」と話しました。

# 包丁とぎ76丁・網戸張替え10本

## チラシまき・宣伝カーで住民よびこむ

### 南千住分会 汐入で住宅デー



東京土建を地域にアピール。南千住・汐入の住宅デー会場

【根本武義記者＝南千住】8月8日、南千住分会は汐入にある相原宅、居酒屋「とうちゃん」前で住宅デーを行いました。

八木博行分会長を始めとする6人が高城健治さん宅に集まり、武藤幸吉さんの車に道具やシートなどを積み込み、準備完了。

濱田和男さんは、支部の宣伝カーでテープを流しながら汐入地域を回りまわした。10時半過ぎ、5、6丁の包丁とぎの依頼があり、やっと動き出ししました。

団地、都営、マンションに住む知人に前もってチラシを配ってもらっていたので、その後は順調に来場者が増え、包丁や網戸の張替えなどと忙しくなりました。

## 不況下での共済の意義学ぼう

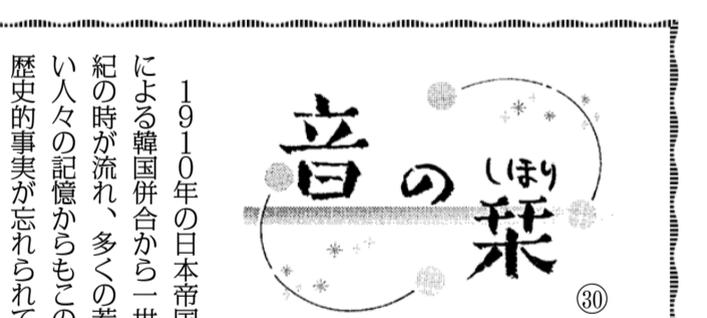
### 火災・自動車共済促進の対策も

共済推進委員学習会

【佐藤雄爾通信員＝南千住】8月24日、厚生文化部は共済推進委員学習会を行いました。講師は本部共済会の早川智書記。参加者は21人でした。

【石田美好さん、小川隆志さん、早川さんはそれぞれ受付を行い、来場者に「アスベスト根絶」の署名をお願いしました。成果は、包丁とぎ76丁、網戸大小合わせて10本、住宅相談は3件でした。

ユメをもとにいていねいな説明がありました。内容は、「建設業の現況や不況状態についての説明。試験の時期を突破すべく、新制度の創設と強化をはかり、青年支援から高齢組合員の激励など具体的な説明がありました。また、秋の自動車共済・



1910年の日本帝国による韓国併合から一世紀の時が流れ、多くの若い人々の記憶からもこの歴史的事実が忘れられていた。併合以前の歴史に触れる必要がある。中国、韓国、日本はこの時代まで社会的、思想的規範を儒教に求めていた共通点がある。とりわけ、韓国においてはその影響が大きく、封建的官僚主義となり、独立国にならず宗主権は中国(清)が握っていた。

【大内良雄＝書記】現在、このところ荒川区内の地域9条の会は、西尾久、東尾久、日暮里、南千住で活動している。



1905(昭和10)年1月15日、新潟県上越市三和区で生まれました。周りは山に囲まれ、丘に登ると妙高山、上杉謙信

## 周りは山々 妙高山に金谷山 故郷は雪深い新潟県上越市

### 町屋南分会 中野 昭一さん



絶景。スキー発祥の金谷山

で有名な春日山、スキー発祥の金谷山が見えます。また、日本三大桜の名所、高田公園があります。高田平野では、春に植えたコシヒカリが秋には黄金色に染まり、水、お茶、酒、魚がおいしいところです。

ここ数年、降雪が30センチばかりですが、子ども

【中野昭一通信員＝町屋南 写真 船橋賢一】8月3日、「あやまれ、つくえなえ、なくせアスベスト被害」首都圏建設アスベ

## なくせ アスベスト被害

### 提訴2周年集會に1160人

#### 首都圏アスベスト訴訟



アスベスト根絶の闘いを前進させる首都圏アスベスト訴訟

【間所秀夫通信員＝荒川】8月3日、「あやまれ、つくえなえ、なくせアスベスト被害」首都圏建設アスベ

火災共済促進月間に向けた取り組みでは、共済制度の魅力と特徴について細部まで学習しました。続いて、秋の拡大運動と並行して積極的に共済制度の周知をはかってほしいと講義は終わりました。活発な質疑応答があり、閉会しました。

主催者、宮島原告団長、小野寺弁護団長などのあいさつに続き、谷博之民主党参院議員が「共にがんばりましょう」と来ひんあいさつを行い、原告団と支援者にエールを送りました。衆参合わせて70人もの野党の議員が賛同していますが、裁判は長期化しています。提訴以来、1人また1人とすでに30人もの原告が結審を待たずに無念にも亡くなっています。

## 10月に講演会も予定 作家の阿刀田高さんを迎えて

### 荒川地域9条の会

【大内良雄＝書記】現在、このところ荒川区内の地域9条の会は、西尾久、東尾久、日暮里、南千住で活動している。

これら9条の会は、宣伝行動機関紙の発行、講演会などをおこなないながら定期的に交流を行っています。来る10月30日には、日本ペンクラブ会長の阿刀田高さん(作家)を迎えて講演会を計画しています。町屋・荒川地域にも9条の会を他の地域や個人の協力も得て確立し、その後連絡会を発足させようと、この間3回の会議を行い、準備を進めてきました。



### ひとくち映画情報

## 「死刑台のエレベーター」

緒方明監督



©2010「死刑台のエレベーター」製作委員会 (配給) 角川映画

1957年にフランスの鬼才ルイ・マル監督がメガホンをとった名作のリメイク。世界各国からリメイクのオファーがあったにもかかわらず、亡くなった監督の家族が日本での再映画化を望んで今回の製作が実現しました。

大手企業「手都」グループの会長夫人・手都芽衣子(吉瀬美智子)は、グループ傘下にある国際医療ボランティア機構の主任医師・時藤彦(阿部寛)と不倫の仲にありました。

年の離れた夫を自殺に見せかけて殺害し、時藤との逃亡を計画した芽衣子。後は時藤が実行するだけになりますが、計画当日に予期せぬ事態が発生します。2人は完全犯罪を成し遂げることができるのか。

男を操る魔性の女を吉瀬美智子が好演しています。10月9日から全国公開。



かしたひでき 梶田秀樹さん 「象牙は中心が密度があつて加工しやすい、まわりは逆目が出やすい。無駄なく使うために刃物も自分で作ります。木と違い、象牙は作った後も伸縮して動いています」と話す

### 梶田秀樹さん

# 象牙細工のひと筋 荒川の地に根ざして

1995(平成17)年度荒川区登録無形文化財(工芸技術)保持者、梶田秀樹さん(58歳、梶田製作所代表、東尾久1-12-9)を訪ね、象牙挽物・細工の沿革について取材をしました。

象牙細工は分業制が普通ですが、梶田さんは原型作りの挽物彫り、仕上げまで一貫して製作しています。

文 竹達浩記者 南千住、写真 並木義男記者 荒川

象牙挽物・細工ですが、挽物とはロクロによる原型作りであり、細工とは総称としては彫刻です。

梶田さんの父、金次郎さんは、ボン(牛骨)を扱う加工場で装飾品にする原型



## 一本の象牙でも 場所によつて硬さなり硬く

作り専業(ロクロによる挽物)の職人として働き、戦後、現在地の東尾久で独立しました。

梶田さんは51(昭和26)年生まれ、中学生の頃から金次郎さんを手伝いながら修行しました。本郷高校で卒業後、デザイン会社に就職。その後、フリーでグラフィックデザインの仕事を続けましたが、事情によって父の後を継ぎました。

象牙細工業界も徹底した分業制を採っていますが、梶田さんは金次郎さんから象牙の木取りと下地の原型作りを学んだほか、独自に修業を積み、造形、彫り、仕上げの技術を習得しました。

アクセサリー、茶道具、印鑑など一切の製品の木取りから仕上げまで一貫してできる技術者となりました。

「象牙細工の一番難しいところは、製品に合った材質を決めること、色、目、硬さなどです。一本の象牙でも場所によって、色、硬さ、光沢、目、逆目などが違います」と梶田さんは話します。

また、象の種類、インド象、アフリカ象、年齢、同じ国でも生活環境によって違い、厳密には象牙の材質は切ってみなければ分からないといえます。

## 厳しい時こそ 職人は技術を高めない

象牙を使った工芸技術は、古くは奈良時代正倉院御物の工芸品の素材として、安土桃山時代には茶道具にも使われ、その後、江戸時代には、根付、印籠、櫛、簪などが作られ、一般の需要が増えて専門職人が登場しました。

明治時代以後、生活環境も欧米化し、一般の人にも印鑑が必要になりました。特

象牙素材のアフリカ象の牙、梶田さん使用の道具と作品



## 荒川線 荒川七丁目駅 都電散歩 5



都内に残る唯一の路面電車、荒川区を東西4キロにわたって横切る都電荒川線。今回は「荒川七丁目」。王子電車が創業した1913(大正

「荒川七丁目」を走る 都電荒川線

2)年当時の名前は、「博善社前」停留所。42(昭和17)年に「三河島八丁目」となり、その後「三河島七丁目」。そして、69(昭和44)年の住居表示変更により現在の停留所名になりました。

わずかな距離ですが、「荒川七丁目」と「町屋駅前」の間に、32(昭和7)年から37(昭和12)年にかけて「稲荷前」という停留所もありました。

「荒川七丁目」から町屋斎場に進み、左側の所に子育て地蔵で有名な東源寺がありました。十数年前にはなくなりました。

京成電鉄の高架線の下をくぐった先が火葬場の町屋斎場です。明治の開業当時、東京博善社という名前の火葬場でしたので、電停名も「博善社前」だったそうです。有名な鈴木その子さん、尾崎豊さん、鈴木ヒロミツさん、また、96(平成8)年8月には、俳優でコメディアンでもある渥美清さんが町屋斎場で葬儀を行いました。

文・写真 川又好一記者 日暮里一

最後に梶田さんは、「材料が途絶えてしまう厳しい時こそ、職人は技術を高めないでダメです。それには道具も創意工夫して作り、不可能を可能にして製品の付加価値を高めて顧客の要求に心えなければなりません」と話していました。

しかし、現在はワシントン条約(絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約の総称)によって、象牙の材料ならびに製品の輸出入が禁止され